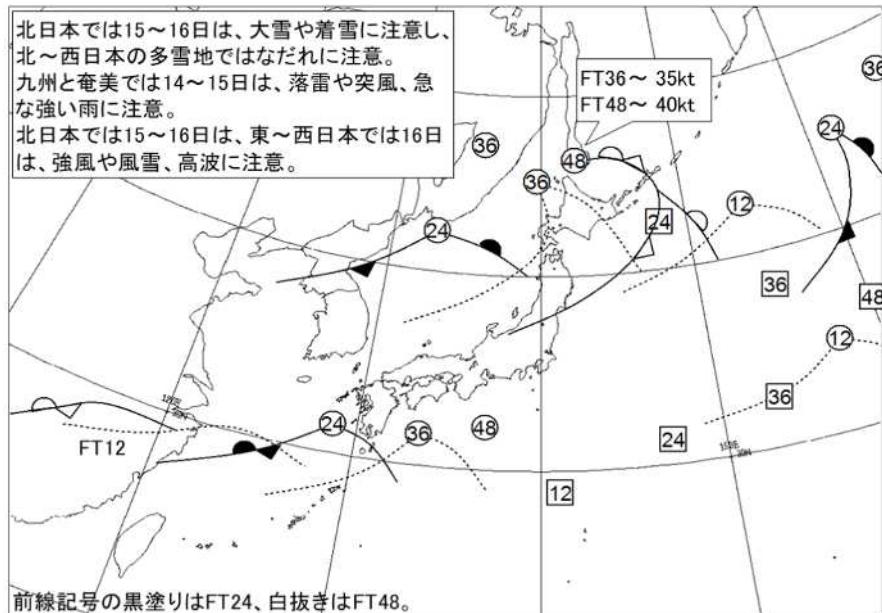


短期予報解説資料 2026年2月14日03時40分発表

气象厅

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5220m付近のトラフが宗谷海峡付近を東南東進し、低気圧が千島近海を東進。北海道地方では、3時間3cm程度の降雪を観測。
 - ② 高気圧が日本の南を東南東へ移動。南西諸島～東日本では晴れでいる所が多い。
 - ③ 500hPa 5640m付近のトラフが華中付近を東進。
 - ④ 500hPa 5340m付近のトラフがアムール川上流付近を東南東進。



主要じょう乱解説図

- ① 1項①のトラフと低気圧は、14日夜にかけて千島の東に進み、日本付近から離れる。

② 1項②の高気圧の後面では、南よりの風で下層暖湿気が流入し、14日朝までに華中～東シナ海で前線が顕在化する。また、1項③のトラフの接近に伴って、14日夜までに前線上の九州の西に低気圧が発生し、15日は日本の南に進むが、特に発達はしない。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。九州と奄美では14～15日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

③ 1項④のトラフは、15日にかけて北海道付近に進む。16日は、500hPa 5160m以下の寒冷渦が宗谷海峡付近から千島近海に進み、500hPa 5340～5460mで -30°C前後の寒気を伴うトラフが本州付近を通過する。地上では、14日夜までに低気圧が日本海中部に発生して、16日にかけて発達しながら宗谷海峡付近を通って千島近海に進み、前線が北日本付近を通過する。低気圧や前線に向かって暖気が流れ込み、15日にかけて850hPa -3°C線が北海道付近に北上するなど、北～西日本では850hPaの気温が平年より10°C前後高くなる。前線の通過後は寒気移流が強まり、850hPaで -12～ -9°C以下の寒気が北～東日本に流れ込むため、北日本を中心に降雪が強まり大雪となる所がある。北日本では15～16日は、大雪や着雪に注意し、北～西日本の多雪地ではなだれに注意。なお、前線の暖域側には下層だけでなく中層にも強い暖気が流れ込むため、大気の状態はあまり不安定にはならない見込みだが、局地的な発雷には留意。

④ 2項③の低気圧や前線の影響で、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では15～16日は、東～西日本では16日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
 - ③ 波浪(明日まで)：北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。